



祝祭日には



を掲げましょう

いまこそ集落創生

第23回 長野地区



①昭和40年以降、養蚕や育牛などの複合経営が試みられた。葉たばこは現在も2軒の農家が生産を続ける ②春には地区を見下ろす高台に大きな桜が咲き誇る。木陰に見えるのは虚空蔵様と開拓記念碑

金山町で最も新しい地区である長野地区。金山町の西端、やや高い位置にある集落です。10戸に約30名が暮らし、比較的小規模ですが、町内でも少なくなった葉たばこの生産が今も残り、夏になると青々と広がる葉が爽快に映ります。

戦後まもなく開拓地に指定された長野への入植は、昭和22年。満州から引き揚げてきた西村山郡柴橋・高松（現在の寒河江市）の16戸と、最上管内の6戸を含めた22戸が、開拓を始めました。20〜30代の若者がほとんどで、一戸あたりの耕地の配分は畑2町5反。「大型機械などない時代。一鍬、一鍬の開拓で、どうにか畑にしたのは昭和30年頃だった」と町史に当時の談話が残されており、開拓の苦労が伺えます。20年以上をかけ、稲作中心の安定した農業経営を実現させました。

開拓2代目にあたる60代の方2名に話を伺いました。「開拓の時代こそ生きてはいませんが、話を聞くにその苦労は計り知れない。道半ばでこの地を離れた人も少なくない」と、二人は幼少期の記憶を辿らせます。続けて、「先代がやっとの思いで拓いた土地。残していかなければという気持ちはみんなある」と話します。実際に地区では、ここ10年で世帯数の減少はほぼ見られず、故郷の長野に戻った後継者もいるそうです。「長野は隣町にも道路が繋がっている。他所から来た人も通るので、道路環境の保持も大切。地区のこれからとあわせて考えていきたい」と、二人は力を込めます。

数奇な巡り合わせで共に長野を興した人々。時代は変わっても「拓魂不滅」の火は灯り続けています。

編集
幸記

▼今年一番の話題は何と云っても「雪不足」でしょう。金山観測所の積雪深は、1月31日9時の時点でなんとゼロ。記録に残っている昭和58年以降、最も少なかったのが、昭和62年の積雪深72cmですので、更新の可能性あります。

▼スキー場にとって雪不足は死活問題。町の除雪車も出勤が少なく、今かと活躍の場面を待っています。「雪が多くて困った」はよく聞きますが「雪が少なくて困った」と頭を抱える年は、滅多にないかもしれません。(中村)

金山町の人口は、5,406人 (12月末現在)

男性	2,636人 (-4)
女性	2,770人 (-7)
世帯数	1,758世帯

▼12月の異動

出生	4人
死亡	12人
転入	7人
転出	10人